

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	株式会社 恵み野介護サービス グループホーム だんらん こがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目13番地1		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171200207-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171200207-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅の中にあるグループホームで、明るく広々とした住居環境の中、利用者とともに季節感にあふれたディスプレイを作成し活性化を図っている。今年度はコロナ禍のため、家族や他事業所、近隣住民との交流が難しく、ホーム内で行える行事等に力を入れ、また日々の体操などもマンネリ化しないようにスタッフが利用者にはわかるような懐メロを唄ったりしながら行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年12月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームだんらんこがね」は、水芭蕉の景勝地であり散策に適したカリンバ自然公園に近く、地域住民の活動拠点でもある小金ふれあいセンターが向かい側にある。今年度は様々な事が自粛となっているが、例年、ふれあいセンターの催し物見学やアイスキャンドル鑑賞、喫茶コーナー等の利用に出かけており、社会資源とも良好な関係を築き地元の活動や地域住民との普段着の交流が保たれている。毎年夏祭りに家族は元より地域の方々を招待し、クリスマス会や敬老会などの行事には各種ボランティアを招き、利用者、家族の楽しいひと時となっている。外出がままならない状況下にあるが、楽しみ事や気晴らしなど利用者本人が好む内容を個別に支援したり、またみんなで集い賑わう室内レクリエーション大会、発声・指先・ゆったり体操、食事に関しても工夫を凝らすなど、職員の豊富なアイデアが隔々に活かされている。事業所内の豊かな設えも特筆の点である。介護計画では課題分析に「IADL」を項目化するなど詳細なアセスメントの元に本来の生活を取り戻す計画が立案されている。自力での車椅子の操作が難しかった利用者が自走できるようになった事例もある。職員が夜間も利用者の側で安らぐような声かけを行ったり、居室環境を適宜見直し整備するなど、一つひとつの細かな心のこもった支援が穏やかで安定した利用者の日々の生活を支える土台となっている。管理者を中心に「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を実践する質の高いアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、スタッフ理念の両方を共有部に掲示し又記載したカードをスタッフ全員が携帯することで確認を行い、共有を図っている。	事業所理念とスタッフ理念に地域密着型サービスの意義と役割が明示されている。理念はパンフレットへの掲載や事業所内の要所へ掲示している。職員個々に理念を確認する機会を設け、日々の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度、夏祭りを開催し、地域の方にも参加して頂いたり、行事の時にはボランティアを利用して交流を務めていたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の方との接触は中止となる。	町内会に加入しりサイクル活動に協力している。今年度は様々な取り組みが中止であるが、例年、事業所夏祭りに地域住民の参加が得られており、また車椅子ダンス、沖縄三線、語り、フルートのボランティアが事業所の行事等に訪れ交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、いつでも地域の方が相談に来られるようにしていたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実現は難しかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行い日常の様子や行事等を報告をし質向上のための意見交換を行ってきたがコロナウイルス感染防止のため会議は中止となり資料を作成し参加者に配布している。	令和2年1月までは通常開催し3月より書面にて会議運営を行っている。家族は元より会議に関わる方々へ活動報告、事故報告、感染症対策、面会等についての運営状況を資料を交えて発信し、家族からの意見や今後の対応等も書面にて報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にも会議に参加して頂き必要に応じて連絡を密に取らせて頂いていたがコロナ感染防止のため会議は中止となり市の担当者とは電話で連絡を取り合って協力関係を築いている。	管理者は適宜、市の担当窓口に出向いているが、現在は主として電話で相談連絡等を行い意見を仰いでいる。生活保護の担当部署へは被保護の利用者の状況や受診に関し毎回電話連絡を行っている。市のGHネットワーク会議等とも連携し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをスタッフ全員で取り組み、やむを得ずセンサーや鈴を設置する場合は、家族の承諾書を頂いている。玄関は施錠は夜間のみ防犯防止のため行っている。	「身体拘束廃止指針」を定め、3か月に1度の身体拘束等適正化対策検討委員会を開催し、議事録を整備している。また年に2回これらに係るテーマを定め内部研修を実施している。ステーションに拘束の11か条を掲示し意識づけを行っている。センサー使用時は家族の同意を得ている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会に参加し、月1のスタッフ会議で研修内容を発表し勉強会を行っていたがコロナ感染防止のため研修会は中止となりスタッフ間では常に話し合い虐待防止に努めている。		

グループホーム だんらんこがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、三密になるような勉強会が一切中止となり学ぶ機会はなかったが、成年後見制度についてはガイドブック等を閲覧することで理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に自宅や入院先を訪問し本人や家族との情報交換を行い不安や疑問点など十分な説明をし納得・理解を得られてから契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは気軽に話せるように関わりを大切にしている。コロナ感染防止の為、家族との面会時間が短縮されている中すみやかに意見要望を聞き記録に残し対応している。意見箱設置も行う。	家族からの意見や要望を貴重なものとし、家族面談の機会を適宜設けている。意見箱の活用もなされている。環境整備や接遇等の改善、利用者支援など、これまで様々な意見が得られており、都度運営に反映させ質の向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1でスタッフ会議を行い話し合いをして改善に取り組んでいる。また連絡ノートを使用し個別に意見交換できるようにしている。管理者は各職員と年1で個人面談を実施し話を聞く機会を設けている。	代表者は敬老会等の行事の際に現場を訪れ利用者、家族と触れ合う機会がある。管理者は職員との定期個人面談や必要時に職員と話し合う機会を設けている。現在月1回のスタッフ会議をグループに分けて開催している。感染症予防対策の表示物は職員アイデアの元、利用者に分かり易く提示されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は各職員に休日希望を聞き可能な限り希望に添ったシフト作成をしている。又職員の努力・実績・勤務状況を把握し職場環境・条件の整備に努めている。介護の給与水準が全国的に低い為、向上心を持って働くまでには至らない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業所外部で開催されている研修も中止が多く、今年度は今のところ参加するに至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、恵庭市GHネットワークも中止されていたが電話などで情報交換は行ってきた。後半より開催されることになったので以前同様 他施設との交流を深め意見交換は行う予定。		

自己評価	外部評価	項目		自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始時には利用者と多く関わり傾聴することで安心感をもっていただき、会話の中で情報を得ようとしている。また、アセスメントに基づき今までの状況と変わらない生活を送れるよう配慮している。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者はどうあってほしいかなど家族の思いを聞き、家族が不安にならないよう要望などをしっかり聞き、安心していただくことで良い信頼関係を築けるよう丁寧に対応している。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換を密にして、その時に必要な支援かななどを十分話し合い見極めた上で、ケアプランに反映し実践するように努めている。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	TVやDVDを楽しめる場所を設け、お茶を楽しみつつ冗談を言いながら笑ったりして日常生活を共に過ごせる環境づくりに努め また体操の時間を設け1日1回は全員がリビングに揃うようにしている。				
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染防止のため、短時間でしか面会できない状況にあるので、なるべく本人と家族が多く会話できるよう配慮し、本人が生活しやすいための話などは改めて電話で対応し努めている。				
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止のため、家族と出掛けることもできず面会は家族のみ。暖かい時期には短時間ではあるが施設周辺を散歩したり、後半には2か月に1度の理容も始めりましたが支援は不十分である。	現在は自粛しているが友人の来訪などがある。毎年、職員が年賀状を個々に手作りして家族へ送付し、また家族との手紙や電話の取り次ぎをサポートしている。生まれ故郷や若い頃の生活など回想法を交えて引き出し、会話の中で馴染みであった事柄に触れる場面がある。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を尊重しながら座る位置等にも気を配り、争いや孤立者が出ないよう良好な関係を築けるように心がけている。状況によってはスタッフが中に入り一緒に関わり合いながら支援を行っている。				

グループホーム だんらんこがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も何か困ったことなどがあれば、いつでも対応しますとお伝えし可能な限り支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で本人の言動を観察し、本人と会話しながら思いや希望を引き出している。困難な場合には何気ない普段の会話や表情などから、本人の思いを引き出している。	職員は利用者と接する中で本人の想いを引き出し、以前の生活状況から日常支援につながる内容を検討するなどしている。把握した情報は介護記録に記し、会議で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族などからの情報、センター方式シートにより情報を収集し、これまでの生活や暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を観察し、個々に合わせた生活が送れるよう現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を観察するとともにスタッフ会議や話し合いで意見交換を行っている。家族との面会時には本人の様子を伝え、家族の意見を反映するよう心がけている。	介護計画に連動した記録を行い、課題分析アセスメントは「IADL」の項目があり詳細である。センター方式のEシートを用い本人が自然に発する言葉からニーズを導いている。関係者間の意見を反映させ、本人本位の計画の立案に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書に沿って毎日の記録を行っている。ケアの工夫等については、個人連絡事項に記入しスタッフ間で情報を共有し実践するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでの生活を大切にしながら家族的な雰囲気をつくり、季節の行事を取り入れながら個々に合わせたサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出することも難しく地域資源の活用も困難で十分な楽しみを得ることができていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、医療機関での受診規制もあるが、かかりつけ医との連絡は電話などで密に行っている。また訪問看護を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。	利用開始時に事業所の医療連携体制を説明し家族の希望を元に主治医を取り決めている。歯科は必要時に往診が得られ、週1回訪問看護の態勢を整えている。受診は事業所対応であるが時々家族の協力も得られている。	

グループホーム だんらんこがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回利用し、日常生活の情報や気づきを伝え相談することで、各利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、24時間いつでも連絡できる体制を整え支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるように定期的に面会をし、またできるだけ早期退院に繋げられるように、ソーシャルワーカーとは密に連絡を取り情報交換や相談を気軽に行えるような関係づくり心がけている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたあり方について早期に家族と話し合い、ホームで可能な支援・不可能な医療行為などの説明を行い主治医に相談・医療機関と連携できる体制を確保し方針の共有を行っている。	「医療連携・重度化に関する指針」を定め、ターミナル支援を行う場合は往診態勢を整え、「終末期生活支援に関する覚書」を家族と交わしている。昨年度も看取り支援に尽力しており、家族の協力も得られている。「看取り介護を経験して」をレポートし事業所として研鑽に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講習なども中止となり学ぶ事ができなかったが、資料等をスタッフ会議で共有し、実践の向上に努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年2回の避難訓練に協力していただいている方には自己訓練を行うことを説明し昼夜想定避難訓練を実施しました。	今年7月に日中、10月に夜間想定火災避難訓練を実施している。今回は自主訓練であったが例年、消防署の指導、地域住民の協力を得ている。自家発電機、簡易ストーブ、食料・飲料などのローリングストックも含め災害に備えた備蓄品を確保している。	初動時にマニュアルに沿った対応がいかかであるか、また利用者の居場所を様々に想定した対応について確認する意向であるので、その取り組みに期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライド・プライバシー等を傷つけないように配慮した対応を行うように日々努めている。	職員は利用者へ敬語で話しかけ優しく対応をしている。個人記録等は他者の目につかないようステーション内で適切に保管されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけをし、スタッフ側の主導になることなく、自己決定して行動できるような働きかけを行うよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ感染防止のため外出が難しかったが体調に応じ近場を散歩したり、屋内では好きなTVやDVDを視聴するなど、その人らしい1日を過ごせるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みなど職員が常に気を配りその人らしい身だしなみができるよう声掛けをしたり2ヶ月に1度訪問理容も行っている。			

グループホーム だんらんこがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を尊重し苦手なものは個別に内容を変更。また食べやすいように工夫して提供している。現在は手袋着用、元、片付けのみ行っていた。	誕生日は利用者それぞれ食べたいものを事前に聞いて、希望の生鮭やチラシ鮭などを提供している。利用者が職員と一緒に稲荷寿司を作ったり、お好み焼きやタコ焼きを作るなど楽しめる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調、個々の食事の習慣・摂取量を把握し、栄養や水分が確保できるようにその利用者の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。個々に応じた支援、声かけ、見守りを行い、義歯使用者は就寝時に入れ歯洗浄剤にて清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表使用で排泄パターンを把握できるようにしている。排泄間隔があいている時・落ち着かない時などサインを読み取ったときは声かけを行い、できる限りトイレで排泄できるように支援している。	水分排泄表、生活介護記録、個人票に排泄の記録を付けており、時間による誘導で適切な支援を行い、尿意が感じられなくなってもトイレで排泄することができるような取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた食事の工夫、運動、水分補給等を行っている。時には便秘薬を使用し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には体温、血圧を測り、体調の確認を行っている。各利用者の気分に配慮しながら個々に合ったタイミングで声掛けを行い、週2回入浴できるよう支援している。	基本は日曜以外に毎日3名程度が午前と午後に入浴をしている。利用者の身体状況に応じ、回転ボードを利用するなど、できる限り湯船に浸かるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調を考えながら居室で休む時間を大切にしている。就寝時にはゆっくり眠れるよう、適度な室温、適切な寝具、寝巻で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認できるように薬の内容を個々のファイルに保管している。服薬時には声かけや見守り、介助を行い、症状に変化があった場合は随時医師への確認、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近隣の散歩DVD鑑賞等、個人の気分転換が図れるような支援を行っている。月1の行事はコロナ対策を万全にして行い、お寿司やケーキ等提供し喜ばれている。		

グループホーム だんらんこがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、買物や外出は難しい状況にある。しかし三密を避け、消毒・手洗い・うがい・マスク対応でホーム近郊を短い時間ではあるが散歩するなどの支援を行っている。	遠方に出かけることが難しくなっているが、事業所の近辺の公園や花壇、近隣のデイサービスの水槽の亀を見るための散歩を継続している。通院の際の行き帰りに車窓から景色を見ることも気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせて管理や支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話を掛けたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓のある広いリビングの空間を生かし、また換気システムを使い常に清潔感を保てるよう注意している。毎年季節に合った飾りなどを利用者とスタッフで楽しみながら作成・掲示をしていたがコロナ感染防止のため、三密を避けなくてはいけないため行えないうのが残念である。	明るく清潔感が感じられるリビングは季節ごとに飾り付けがされている。壁には手作りの大きなカレンダーや作品展として手作りの飾りが掲示されている。天窓があり風や日光を取り入れることで解放感があり、居心地よく過ごすことができる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者の食席のほかリビング窓際とステーション側にソファー席・TVを設け、また談話コーナーにソファー席を設置し、自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の家具や装飾品はご家族に相談し、馴染みのものを持参していただき、写真・思い出の品・身内からの贈り物・スタッフからの誕生日色紙などを飾るなどして居心地よく生活できるようにしている。	自宅にいる感じで落ち着いて生活できるよう、使い慣れたものを持ち込み、仏壇、冷蔵庫、テレビ、日めくり、ポスターや写真などを飾り自分らしく安心して過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、浴室、トイレ等動線を意識した手すりを設置し、転倒の危険が高い利用者にはご家族と相談、同意の上アラームを設置し、安全に生活できるよう支援している。		



目標達成計画

事業所名 グループホームだんらんこがね

作成日：令和 3年 1月 10日

市町村受理日：令和 3年 1月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	マニュアルに沿ったのみの訓練を実施していたが、想定外の状況に対する訓練の実施ができていない事が問題点である。又新人スタッフの訓練に力を入れることも必要である。	入居者の行動の状況を確認しながらその時の状況に応じて避難できる訓練を実施する。	出火場所を把握しマニュアル以外での介護度に応じた避難経路の対応を行う。新人スタッフ採用に応じ訓練を実施なおかつスタッフ全員での振り返りの時間を設けるようにし注意点など話し合いを行う。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。